

# くしまっ子

### 竹刀に気合込め 目指すは日本一

「メーリング」。掛け声と竹刀の交わる音が響く道場で稽古を重ねる福島小学校6年の中津留剣慎くんは、9月に開かれた5人1組の団体で争う「第13回全日本都道府県対抗少年剣道優勝大会」に宮崎県代表の1人として出場しました。

剣慎くんは、小学2年から剣道を始め、過去全国大会でも優勝を果たしてきた宮崎剣心館道場で腕を磨いています。毎日の稽古で着々と力を付け、指導する館長の



迫力ある掛け声で相手を威圧する中津留くん

## 県代表の少年剣士



なかつる けんしん  
**19. 中津留 剣慎くん**  
福島小学校6年。小学2年から北方の宮崎剣心館道場で剣道を始める。今年9月に県の選抜メンバーとして全国大会に出場。得意技はメン。

岩下勇次さんも「平成5年に日本一になった子どもたちにも匹敵する力を持っているし、努力次第では日本を代表する選手になれる可能性もある」と成長に目を細めます。

今年6月、選考会を兼ねた県大会で2位に入り、大舞台への切符を獲得。初めての出場となった全国大会では副将を務めました。「緊張で自分の力が出せなかった」と大会は予選リーグで敗退したものの、全国レベルの選手との試合や、一緒に大会に臨んだ県内トップレベルの選手たちと練習することで大きな刺激を受けたといい、次の大会へ向けて練習にも熱が入っています。

目指す剣道は、岩下館長が指導する「正々堂々」とした剣道。先生の教える剣道を自分のものにして日本一になることが目標と剣慎くん。さらなるレベルアップに向け、竹刀を握る手にも力が入ります。



## 農業振興へ若い力

### 串間の将来の農業を担う

今年で発足56年を迎えた県SAP会議連合。「Study for Agricultural Prosperity」(農業繁栄のための学修)の頭文字を取った若手農家たちの自主学習グループです。県内には20の機能集団があり、その中で串間市に組織されているのが串間市SAP会議。甘しよや酪農、オクラなどを手掛ける生産者11人が加入し、宮崎や串間の農業を元気にするために、さまざまな研究課題に取り組んだり、魅力を伝える活動をしています。

その串間市SAP会議の理事長を務めるのが、果樹農家の古屋雅登さん。5年前に就農し、後輩に誘われて入ったSAP会議は4年目。早期きんかんを栽培する傍ら、SAPの活動にも力を入れていきます。

SAP活動では、仲間と農業について熱く語り、若手農家には積極的に言葉交わし、リーダーとして串間市SAP会議をけん引します。「後輩たちには農業の楽しさを伝えたいし、このSAP会議を農業に生かせるものを持ち帰れる場にしていきたい」と話します。

SAP会議が力を入れているのが、2003年から取り組んでいる食農教育・地産地消をテーマにした「SAP農園」活動です。子

どもたちに地元の特産品や農業に関心を持ってもらおうと、毎年市内の園児たちを招き、甘しよを栽培するSAP農園で芋掘り体験会を開催することで、後継者育成の機運を盛り上げています。

「昨年より今年と、活動も毎年同じではなく、少しずつでも新しい可能性にチャレンジしたい」と古屋理事長。今年も収穫だけではなく、食育にもつなげたいとその場で焼き手にして提供したり、搾乳体験を実施したりと、柔軟な発想で新たな取り組みにも挑戦していきます。また、研究などのプロジェクト活動なども展開。その成果をSAP冬期大会などで発表し、県内外の仲間にも広めています。

古屋理事長は、SAP活動での一番の収穫を「人とのつながり」といいます。手掛ける農産物やJA、法人の枠を超えて交流できる場であり、互いに農業に関する技術や知識の習得を図りながら、農業経営の改善を図っています。

少子高齢化による農業労働力の減少など農業を取り巻く環境は厳しい状況にありますが、「この状況を若い力と発想で乗り越え、串間の農業を元気にしたい」と古屋理事長。優れた後継者を育ててきたSAP会議の果たす役割は今後ますます大きくなるはずと。



ふるま まさと  
**古屋 雅登さん**  
(福島地区・上小路)

北方・前田地区出身。31歳。さんかん農家。串間市SAP会議理事長。趣味は料理で得意料理はペペロンチーノ。



SAP農園で収穫祭



串間市SAP会議メンバー



串間で活躍する人を  
紹介します

**きらめき図鑑**  
kirameki

### 地域おこし協力隊

# 活動日記

vol.19 「ふるさと納税PRポスター」

ふるま あやの  
**福島 綾乃さん**



情報解禁から早1カ月。ふるさと納税PRポスターの制作プロデューサーを任された私は反響に驚いています。はじめは市内をメインに配布する予定はなかったのですが、あまりにも「ほしい!」「貼りたい!」のお声をいただき、本当にありがたい限りです。作った甲

斐がありました。実は撮影に踏み切るまで賛否両論ありました。アイデアの段階で「さすがにこれはやりすぎじゃないか?」「市長にこれをさせていいものか?」との声もありました。しかし島田市長をモデルとして登場させるのであれば「あのポスター、市長がモデルになったのに鳴かず飛ばずだったね。」と言われるようなモノを作っちゃダメ。しっかりインパクトと遊び心をふんだんに盛り込み、振り切ったポスターでなければいけなかったのです。かといってセットを組んだりエキストラさんを雇うお金はない。なら課内の納涼会へ市長に来てもらえばいい! エキストラはできあがった職員さんで対応してもらおう!

なんとか製作費を抑えるための背に腹は代えられないブッキングです。合成写真かと思われる方もいらっしゃるのですが、実際に市長は鼻輪をし、角をつけ、タンクトップに泥だらけの姿で市内飲食店協力のもと撮影しました。この撮影終了までに製作費を抑えることと、思い描いているイメージにどこまで近づけるかっていうせめぎあい、面白いんですよこれが。多少のプレッシャーを感じながら思い描く作品を作り上げるのはめっちゃ楽しいですね。

ふるさと納税PRポスターの詳細につきましてはHPをご覧ください。  
<http://www.city.kushima.lg.jp/main/news/r.html>